

新学部学科を起爆剤 に大学全体の活力を 作っていききたい

摂南大学 学長 今井光規

取材文／堀水潤 撮影／高橋貴絵



【学長プロフィール】1938年生まれ。神戸大学文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、広島大学助教授、大阪大学言語文化部長などを経て02年摂南大学国際言語文化(現外国語)学部教授。同学部長を経て07年より現職。

【大学プロフィール】1975年創立。法学部(法律学科)、外国語学部(外国語学科)、経済学部(経済学科)、経営学部(経営学科、経営情報学科)、理工学部(生命科学科、住環境デザイン学科、建築学科、機械工学科、電気電子工学科、都市環境工学科)、薬学部(薬学科)の6学部12学科体制(2010年4月より)。

本学は、幅広い学問領域をもつ総合大学でありながら、学生数約6400人という「大きすぎない大学」です。

他学部との連携のなかで視野を広げるにはベストな規模であるうえ、学生と教職員の距離が近く、きめ細やかな全人教育を可能とすることなどの特長につながっています。現在、旧校舎の建て替えを順次進めています。2011年竣工の新校舎は設計段階から学生たちにも参加してもらいました。本学は学生を中心とした大学であり、今後もうこうした取り組みを増やしていくつもりです。

このような持ち味をさらに進化させるべく本学は大規模な改革を進めています。10年4月には現行の5学部10学科から6学部12学科体制に移行します。経済学部を新設するほか、工学部に生命科学科、住環境デザイン学科を新たに設置し、理工学部にも改組します。それぞれ地域・観光経済、遣伝子組み換え、環境問題なども扱う、激変する現代社会の要請に対応した学部学科です。新学部のカリキュラムを貫く姿勢、それは既存学部を含む全学の共通方針といってもいいのですが、机上の理論に偏らず、実践を重んじることです。そのためフィールドワーク、学外演習、実践的な

どの科目を積極的に取り入れています。

近年、学業に不熱心な学生の問題が指摘されています。単位のために嫌々勉強をしている学生も少なくないでしょう。原因のひとつは、ペーパー試験に追われ、実践に伴う達成感、成功体験に乏しいことではないでしょうか。

私もそれは根本から変えます。単位のためではなく「やりたいからやる」という学びを提供し、学問がおもしろくてたまらないという感覚を感じさせたいのです。インターンシップもそのため。社会との繋がりを感じ、社会貢献に対する喜びと自信を育んでほしい。そうすれば自ずと勉学に対する意欲もかき立てられるでしょう。その時こそ理論を学べばいいのです。インターンシップの狙いは学問への意欲喚起です。

今回の改革は他学部にも影響を及ぼすものです。意欲や積極性に富む学生を育て、大学全体の活力を作っていきたいと考えています。取り組み自体に派手さはなく、突飛なことでもありません。教職員が一丸となり、やるべきことをやっているだけです。「新しい大学教育のひとつのモデルとなる」。そんな意欲で取り組んでおります。